

## セミナー報告

令和3年度 男女共同参画セミナー③

### 「LGBTの存在をもっと身近に」

令和4年1月22日(土) 10時~12時

講師 荒牧 明楽 (OVER THE RAINBOW/NPO 法人カラフルチェンジラボ)



#### 【講師プロフィール】

幼少期から自分の性別に対して違和感を感じながら過ごす。人と違うことで孤立感を持ちながら生きてきたが、高校時代に「性同一性障害」という情報を知り、同じような人達と出会うことで救われる。同じように苦しんでいる人達の力になるため、大学生時代からトランスジェンダーを中心とした啓発活動を行う。2017年「OVER THE RAINBOW」を発足。すべての人々が個性を認め合い、協力し合える尊厳社会の実現に取り組む。2018年九州レインボープライド実行委員会に参加。2019年「NPO法人カラフルチェンジラボ」にも所属し、企業や学校などでLGBTの研修・講演会等で講師を務める。

#### 《セミナー概要》

LGBTに関する問題は、ダイバーシティ(多様性)&インクルージョン(社会的包摂)のお互いの多様性を認めあい尊重し合って、それを社会的エネルギーに変えていこうという取り組みの一つ。多様性は「ちがひ」のことで、「ちがひ」には“見えやすいちがひ”と“見えにくいちがひ”がある。“見えにくいちがひ”にしっかり気づいて想像できる力がこれからの時代は特に必要である。

LGBTは、性的少数者の総称の一部。L(レズビアン/女性同性愛者)・G(ゲイ/男性同性愛者)・B(バイセクシュアル/両性愛者)・T(トランスジェンダー/出生時の性と異なる性で生きようとする人)の意味。LGBは恋愛対象のこと。性的指向に関するセクシュアリティ。Tは自分のことをどう思うか、心の性に関すること。性自認に関するセクシュアリティ。日本で一番多いセクシャルは、ヘテロセクシュアル(異性愛者)とシスジェンダー(身体の性別と性自認が一致している人)。いわゆる俗に言う「普通の人」といわれている人である。なので、自分とは関係ない事ではなく、一人ひとりが一当事者であること。セクシュアリティは、個人の人格の一部であり、人間の性の多様性の総称。他人から強制されたり奪われたりするものではない権利。つまり、性の話は人権の話=命の話である。

性は、性別(生まれた時の身体・戸籍の性)・性的指向(好きになる相手の性別)・性自認(自分の性を自分でどう思うか)・性表現(服装・しぐさ・言葉使い等)の4つの構成要素で成り立ち、組み合わせは無数にあり、あり方はグラデーションである。また、恋愛は趣味趣向の延長線上ではない。

国が変わるだけで性別の概念も大きく違うことも知っておきたい。日本の現状では、同性愛者は見て見ぬふり、いないものとして扱われている。これは人権侵害に値し、SDGsの理念「誰一人取り残さない」の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」に掲げられたすべての人が性別にかかわらず平等に機会が与えられる社会をつくるには、まだまだ根深いものがある。SOGI(性的指向・性自認・ジェンダー表現)に関する侮辱的発言やアウティング(本人の同意なく他人にばらしてしまう)は、プライバシーの侵害であり、決して許されないことを認識しておきたい。

体験談を通して、一般常識という同調圧力や性的指向はわがままと受け止められ、知らないという事で起きる差別的言動、周りにはいない前提で話されること。それによって共感者がいない→孤独感・不安感・自己否定感・劣等感→いじめの対象→ひきこもり→周りからの眼・声が気になる→生きる事の楽しさがない→うつ病→自殺者増といった精神状態と困難、実態がある。成長期の身体の変化で「自分って何なんだろう」と悩むが誰にも相談できない。家族・学校は自分の生きていく場所で、そこでのカミングアウトはハードルが高い。自身は、カミングアウトすることができ、受け入れてもらうことができたため、安心感と生きていける希望と勇気をもてたと語られた。

私たちが、LGBTの人のためにできることは、「アライ(同盟・支援者)になろう!」まずは知る事。言葉の言い換えと正しい知識。その人は何に困っているのか寄り添って考えてあげる。性の当事者は一人ひとりが自分のことだったんだと意識が変わることである。

そして、当事者は『特別なことを望んでいるわけではない。一人ひとりがただ幸せになりたい。普通の日常を送りたい。自分らしく生きたい。自分らしく生きる権利はどんな人にもある。よりよい社会となることを願って・・・』と結ばれた。

※別紙資料あり

《受講生の感想》※抜粋

- ・私自身が育てられた環境で男は・・女は・・と決められた事が当たり前と思っていた事が、今の色々な情報や今回のような研修を受ける事によって、自分の当たり前はそうでないという事に気付けるので良かった。
- ・自分の知識が浅い事がわかった。自分らしく生きる事は、LGBT の人たちだけでなく誰れもが自分らしく生きる事の重要性を感じた。共生社会を作る事が重要。
- ・トイレを聞かれたり、子どもからカミングアウトを受けたときの対応の仕方は改めて考えるとむずかしいと思った。無意識に傷つけてしまわないよう気をつけたいと思う。
- ・とてもよかった。知識を得ることで今後の人生に喜びが増えると感じた。
- ・少しは LGBT 分かっているつもり理解しようと思っていたが、話をきくと表面上だけしか分かっていない自分に気付いた。
- ・知識として情報を入れることによって、より周囲に気遣いをすることが出来るので新たな気配りが出来そうで嬉しかった。
- ・性の指向について、普段は何も意識していなかったが、それは重要な人権なのだと確認できて今後あらゆる場面でそれに理解し配慮することが必要だとわかった。
- ・LGBT 当事者が 11 人に 1 人おられるということであれば性的「少数者」=「マイノリティ」ではない。「マジョリティ」として、一人ひとりの人権が尊重されるような社会をともに創り上げていきたいと思った。
- ・今日はたくさんのことを学び、私もアライになるために、これからももっと学んで行きたい。
- ・LGBT とは私にはまったく関係ない事だと思い込んでいたが、きょうの話を聞いてだれもがかかわりがあるのだと思った。少しでも理解してその人が男であれ女であれ人間として接していきたいと思った。
- ・気がつかなかった事が多く、まず知る事が大切で大きいと思う。LGBT について子ども(小学校からの)の時から理解できるように教育に含んでほしい。子どもの時から正しい知識を持ってほしい。
- ・正しい知識を持ってどのように対応したらよいか分かってよかった。アウティングについて、これまで軽々しく話してきたことも LGBT の人にとっては命に関わるような問題であることが理解できた。多様な性のありかたを認め、許容していく社会に日本も早くなればいいと思った。
- ・ご本人から声が聞けたことはとてもよかった。LGBT について正確な情報を得ることができた。
- ・無意識の偏見は自分の中にあると思う。自分の発する言葉で傷つく人もいるということも考えながら行動したいと思った。
- ・LGBT について今まで知らなかったことが沢山知ることができてとても貴重な時間になった。改めて自分を見つめ直す機会にもなったので来て本当によかったと感じた。
- ・LGBT の当事者の方の生の声を聞く機会を頂き自分の事を反省することがあった。
- ・貴重なお話をどうもありがとうございました。ワークショップ形式は大変勉強になりました。